

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0055

住 所 東京都中央区豊海町4-18 東京水産ビル6階

氏 名 株式会社マルハニチロ物流

代表取締役社長 武田 信一郎 印

(代理人) 関東支社 取締役社長 竹内 好弘

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します

事業者の氏名 又は名称	(株)マルハニチロ物流		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島17-7		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	主として冷凍貨物品の保管を行っている。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,259	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2020 年度 ~ 2022 年度 (報告年度 2022 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページにて公表しています。 <a href="https://www.logi.maruhanichiro.co.jp/upload/news/13320001635e93cf84f026d.pdf">https://www.logi.maruhanichiro.co.jp/upload/news/13320001635e93cf84f026d.pdf</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度		第1年度		第2年度		第3年度		目標排出量	
	(2019年度)		(2020年度)		(2021年度)		(2022年度)			
排出量 (t-CO2)	(実)	4,325	(実)	4,164	(実)	4,102	(実)	4,180	(実)	4,195
	(調)	4,206	(調)	4,027	(調)	4,065	(調)	4,171	(調)	4,080
削減率			(実)	3.7%	(実)	5.2%	(実)	3.4%	(実)	3.0%
			(調)	4.3%	(調)	3.4%	(調)	0.8%	(調)	3.0%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	倉庫トン				原単位等の単位	t-CO2/吨			
	基準年度		第1年度				第2年度		第3年度
	(2019年度)		(2020年度)		(2021年度)		(2022年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.04728		0.04552		0.04484		0.04569		0.04586
活動量の値	91475		91475		91475		91475		-
排出量原単位等の削減率			3.7%		5.2%		3.4%		3.0%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	川崎3センターにて倉庫内への暖気流入対策等を行った結果、エネルギー使用量が削減された。その結果、排出量と原単位は、それぞれ基準年度比3.7%削減した。第1年度にて目標数値を達成することができたが引き続き排出量削減を実施していきたい。	
第2年度	川崎3センターにて倉庫内への暖気流入対策、空調機入替を行った結果、エネルギー使用量が削減された。その結果、温室効果ガスの排出量と温室効果ガスの排出の量に係る原単位は、それぞれ基準年度から5.2%削減した。第1年度に続き第2年度でも目標数値を達成することができたので引き続き排出量削減を目指していきたい。	
第3年度	引き続き倉庫内への暖気流入対策、空調機更新棟を行ってきたが、川崎第一、第二では第2年度よりエネルギー使用量は増加してしまった。しかし、川崎第三で冷凍機の設定温度変更及び台数制御を行った結果、目標排出量3.0%以上の削減に繋げることができた。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		毎年、3センターにて計画していた対策を実施していった結果、目標を上回る結果を出すことができた。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		次期3カ年計画においても今まで行ってきたことを継続しつつ、新たな対策を練っていかねば目標達成には厳しいものとなるであろう。6年間の報告でやり尽くした感もあるが小さなことからコツコツと排出量削減を行っていきたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国設備担当者会議を年4回実施し、省エネに関する意見交換を行った。</li> <li>・全国各地域にて毎月施設担当者会議を実施して、電力量の実態調査と省エネに関する活動の報告を行った。(月々電力使用量のトレースを行い使用量削減の意識を高めている。)</li> <li>・事務所にクールビズ・ウォームビズを実施して空調機の節電に励んだ。</li> </ul>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①接車バス外気侵入対策による節電          ・トラックバスと車両の密着度を上げ外気侵入を防ぐ。          劣化したバスパッドの交換          ・有圧扇の設置により外気を外に逃がし空調機器の運転時間削減          ②蛍光灯照明のLED化          川崎第一、川崎第二にて照明のLED化を進める。          ③事務所空調機の更新により省エネを図る          ④事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理強化          温度表示、スイッチオンオフの確認シールの貼付・表示により節電意識を高める。          冷凍機の温度スケジュールを確認強化することにより冷凍機運転の高効率化を図る。</p>
<p>第1年度</p>	<p>①接車バス外気侵入対策による節電          川崎第二にて有圧扇設置。(3バス)          川崎第一、川崎第三にて接車バスパッド交換。(5バス分)          ②蛍光灯照明のLED化          川崎第二にてカートラック室照明のLED化。(49カ所)          ③事務所空調機の更新により省エネを図る          川崎第一にて事務所3カ所の空調機を更新          ④事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理強化          3センター各自で実施。</p>
<p>第2年度</p>	<p>①接車バス外気侵入対策による節電          川崎第二にて2021年度も有圧扇3バスに設置。          川崎第一、川崎第三にて接車バスパッド交換。(7バス分)          川崎第一にてエアシェルター交換。(2バス分)          ②蛍光灯照明のLED化          川崎第二にて階段非常灯のLED化。(23カ所)          ③事務所空調機の更新により省エネを図る          川崎第一にて事務所6カ所の空調機を更新。          川崎第二にて事務所2カ所の空調機を更新。          ④事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理強化          3センター各自で実施。また、エアコンのフィルター清掃を実施し冷却効率を上げている。</p>
<p>第3年度</p>	<p>①接車バス外気侵入対策による節電          各センターにて随時オーバードアの整備を行い、外気侵入を防いでいる。          川崎第一にてバスパッド交換(6カ所)、川崎第三にてバスパッド交換(1カ所)          ②蛍光灯照明のLED化          川崎第二にて事務所照明(蛍光灯→LED)更新(1部屋分)          川崎第三にて屋外メタルハライドランプからLEDへ交換実施          ③事務所空調機の更新により省エネを図る          川崎第一にて2階荷捌き空調機更新          ④事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理強化          3センター各自で実施。また、エアコンのフィルター清掃を実施し冷却効率を上げている。          その他、防熱扉整備、荷捌き空調機洗浄などを行い、効率の良い冷却を行っている。          (電気使用量の削減)</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>計画期間における取組については、毎年取組事項を何かしら実施することができた。大幅な省エネに繋がるものは少なくなっているが継続的に実施していきたい。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	2024年度以降に川崎第一物流センターにて軽量の太陽光パネル設置予定(屋上防水施工後に計画)
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他( )		
その他( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電	場所 川崎第三物流センター 出力 7.02kw 用途 自家消費	2013年度
	発電電力量2018年度 7,382 kwh/年	
	発電電力量2019年度 6,969 kwh/年	
	発電電力量2020年度 6,950 kwh/年	
	発電電力量2021年度 7,253 kwh/年	
	発電電力量2022年度 6,689 kwh/年	

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他( )	
EV、PHV、FCV	×	その他( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	グリーン経営の推進及び新規認証取得 環境問題への取り組みの一環として、省エネ設備の導入や廃棄物の適正管理、環境教育を実施、エコマーク製品の優先購入をする。 未取得センターの認証取得を目指す。
第1年度	川崎第一、川崎第二を含む6センターが更新審査を受ける予定であったが、コロナの影響によって次年度に見送られた。新規認証取得は無し。 川崎第一にて事務所空調機3か所の更新を実施。 廃棄物の適正管理を行うべく社内教育を行い管理体制に力を入れています。 川崎第二ではアスクールで商品を購入するなかでエコマーク製品が50%以上を占めている。
第2年度	川崎第一、川崎第二を含む6センターが更新審査を受け更新された。 新規認証取得は無し。 川崎第一にて事務所空調機6か所、川崎第二にて事務所の空調機2か所の更新を実施。 廃棄物の適正管理を行うべく社内教育を行い管理体制に力を入れています。 3センターにて環境配慮製品にあたる「GPN」、「エコマーク」、「グリーン購入法」に該当する製品購入を推進している。
第3年度	川崎第一、川崎第二を含む6センターが書類審査を受け更新された。 新規認証取得は無し。 川崎第一にて荷捌き空調機の更新。(1フロア) 引き続き、廃棄物の適正管理を行うべく社内教育を行い管理体制に力を入れ、 3センターにて環境配慮製品にあたる「GPN」、「エコマーク」、「グリーン購入法」に該当する製品購入を推進している。

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	4,325 t-CO <sub>2</sub>	4,164 t-CO <sub>2</sub>	4,102 t-CO <sub>2</sub>	4,180 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	2,291 KL	2,260 KL	2,281 KL	2,259 KL
事業所の数	3	3	3	3

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎第二物流センター	川崎区東扇島17-7	1,876	1,804	1,785	1,850
川崎第一物流センター	川崎区東扇島25-2	1,570	1,531	1,478	1,514